

鳥取県ICT活用教育推進ビジョンのパブリックコメントの概要について

- 1 **実施期間** 平成27年1月19日（月）～同年2月6日（金）
 2 **公募方法** とりネット 新聞広告 県民課等関係機関で配架
 3 **応募件数** 5件 18項目
 反映: 3 既に対応済み: 1 今後の検討課題: 7 その他: 7

4 主な意見と対応方針

- 主な意見と対応は以下のとおりだが、ビジョン案の修正というよりも、ビジョンに掲げた内容の実現、推進に向けた建設的な意見が多く寄せられた。
- 小中学校、高校の教職員、保護者、さらに一般の方と幅広く意見をいただいた。
- ビジョンの項目立てに沿って【学び】【教室】【支援】【基盤】【その他】に分類したが、特に支援に関する意見が多く、今後の重要な検討課題の一つであると思われる。

意見の概要	対応方針
① 市町村により基本的な ICT 機器の整備などに温度差が大きく、ビジョンが推進されるために県から働きかけをしてほしい。 【その他】	案に反映。市町村に会議等で趣旨を説明し理解を促進。
② タブレット端末を教室で活用するためには学校内外のネットワーク環境の整備が前提となる。技術面も含め県から市町村にアドバイス・情報提供をしてほしい。 【基盤】	案に反映。
③ ICT 支援員は、従来の短期雇用では知見の蓄積と活用が困難であり、継続的な雇用と研修機会を保障し、人材を育てていくことが必要。 【支援】	今後の検討課題とする。
④ JNK4 という NPO 法人の実施している資格試験や研修を、今後の ICT 支援員の募集や研修に活用してはどうか。 【支援】	具体的取組に反映できるか検討する。
⑤ 学校現場で ICT 関連の教育活動を実践してきた人材を ICT 専任指導主事として配置し活かしていくことによりビジョンが効果的に進められるのでは。 【支援】	今後の検討課題とする。
⑥ ICT 担当となった職員が、技術面、教育運営面で全国の先進地の蓄積された知見などを学ぶ機会を設けていくなど、人材を育成していくことが大切。 【支援】	今後の検討課題とする。
⑦ 生徒一人一人が端末を利用できればアクティブラーニングの新たな手法が導入でき有効。その際は、生徒の情報モラルのさらなる育成が必要。 【学び】	参考とする。
⑧ 端末は同一機種がよく、端末やサーバーの管理などに常駐の専門職員が必要。現状は教員が業務に当たっており、運用、メンテナンスの人材確保が必要。 【教室】【支援】	今後の検討課題とする。
⑨ 授業での活用には教育センターの研修に加え学校現場での挑戦が重要だが教員に余裕がない。新機器導入の際は挑戦の時間の確保や、専門家配置などの支援が必要。 【学び】【支援】	今後の検討課題とする。
⑩ 早期に学校を決めて試験的に端末等を導入し、様々な課題を把握することと活用できる教員を育成し、全県的な導入につなげるべき。 【学び】【教室】	既に対応済み。
⑪ 経費削減のために必要なスペックを犠牲にし使い物にならないことは避けてほしい。また業者選定に熟慮を。 【基盤】	参考とする。

⑫ 知識の活用には学校での経験が必要、そのため TT 的な授業支援が必要。SE の配置よりも知識のある教員に SE 的知識を持たせた方が効果的と考える。 【学び】【支援】	今後の検討課題とする。
⑬ 民間回線の有効な利用等も含め仕様を検討すべき。 【基盤】	参考とする。
⑭ BYOD 導入には個人情報・セキュリティ確保が必要不可欠であり、議論が必要。 【基盤】	参考とする。
⑮ 民間サービスの活用を前提にすることについて、その問題点などきちんとした検討が必要。 【基盤】	参考とする。
⑯ 校務の情報化やとり教ネットの現状把握が不十分。 【その他】	参考とする。
⑰ ICT 導入は、その意義を学校現場に明確にし、プラスマイナスを検証した上で行ってほしい。 【その他】	案に反映。
⑱ より詳しい説明がほしい。 【その他】	参考とする。